



一つのワタの実に、かたまりが3個と4個のものがあるのはなぜ

ワタの種類によって、ちがう

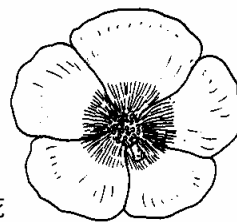
ワタは、フヨウやムクゲの仲間です。春に種をまくと、夏、フヨウなどによく似た花が咲きます。花が咲いたあと、ビー玉ぐらいの大きさの、緑の実がなります。そして、40～60日ぐらいたつと、実が割れて、真っ白な綿のかたまりが現れます。一つの実の中に、綿のかたまりが、3～5個入っています。このかたまりの数は、ワタの種類によってちがうようです。

種についての綿毛も、種類によってちがう

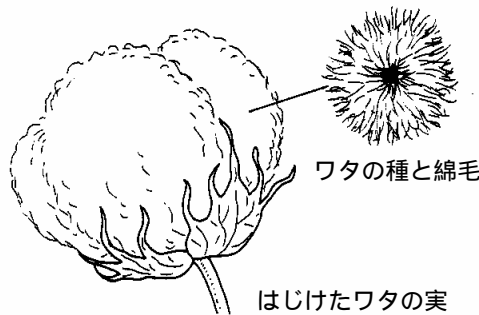
ワタの種類は、インド、中国、日本などでさいばいされているアジア綿、メキシコが原産で、世界のさいばい綿の90パーセントをしめるアップランド綿、いちばん細くて長い綿毛のエジプト綿の三つに、大きく分けられます。

ワタの実に入っている、綿のかたまりの一つの中には、綿の毛に包まれた種が、6～9個入っています。

この種についての綿の毛の長さや数が、ワタの種類によって、ちがいます。アジア綿は毛が短く、1個の種についている毛の数は1200～3300本、アップランド綿は、中くらいの長さの毛で、数は8000～15000本ぐらいです。（監修・矢野 亮）



ワタの花



ワタの種と綿毛

はじけたワタの実

